

「学ぶ力」	
成果	課題
◇児童アンケートや教職員アンケートから、「教科の学習で『わかった』『できた』『活躍した』『もっとやりたい』など自信と意欲を高めた」という項目に対して肯定的な回答の割合が多い。 ◇共通指標アンケートで「振り返りを通して自分の伸びや成長を感じることがある」に肯定的な回答が多く、振り返りの活動を大切に丁寧に取り組むことで、自己の伸びを実感する児童が増えてきている。	◇札幌市の共通指標から、学習に関連して、「自分の意見を進んで発言しようとしている」の項目に対して、高学年の否定的な回答の児童の割合が昨年度から増加した。 ◇全国学力・学習状況調査の結果から、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という項目に否定的な回答の児童の割合が約30%を占めている。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇札幌市共通指標の「振り返りを通して自分の伸びやよさを感じることがある」「人のよいところを見付けようとしている」等の相互承認に関連する項目において、肯定的な回答が昨年度より増加傾向にある。普段の授業の中での振り返りや、ふれあい活動による異学年交流の実施、子ども同士による学校行事前後の相互評価の場を設定していることが自己肯定感の高まりにつながっていると考えられる。総合的な学習の時間をはじめ、どの教科においても、教師だけでなく子どもたち同士による意見の価値付けを継続していくことが重要になる。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

主体的に学び続ける

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	(1)「AAR サイクル」の手立てを中心とした「課題探究的な学び」の実現 →子どもが単元や題材の見通しを明確にもち、学び進めようとする意欲や期待が高まる事象や教材との出会い（イントロダクション）や教師の関わり →個々の課題に取り組む個別探究と集団やグループで協働的に学ぶ協働探究の場（アクション）を位置付けた単元構成※内容に応じて思考ツール・ICTを活用する →子どもも教師も振り返り（リフレクション）、次につなげる学習サイクル (2)協働探究において、児童の考えや思いが共有できるような環境づくりを進める。	①よりよい学校にするための挨拶運動の充実 →全学年の児童による「あいさつチャレンジ」 →主体的な活動を通してよりよい挨拶を目指す →Googleform による振り返りの実施 ②自治的な活動を取り入れた児童会活動 →大谷地小の実態を見据えた上で取り組む委員会活動 →トライ＆エラーの繰り返しによる実感を伴う振り返り ③上記で挙げた自治的な活動で得た、「何のためにするのか」、「誰のためにするのか」といった目的意識、相手意識を教科の学習でも生かさないか考える場を設定する。
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について		
◇主に①について、Googleform を用いて、活動に対する振り返りを行い、現状の子どもの思いを把握し、教職員が明日の実践に生かせるようにする。 ◇主に(1)や②、③について、GoogleChat を用いて、教職員同士の交流を図り、「AAR サイクル」の手立てに対する解釈をより一層深められるようにする。		

<本プログラムの実行に向けて>



